

低コスト施肥体系の導入支援による茶業経営の安定化

農業技術センター足柄地区事務所

実施期間：令和4年～6年

課題・目的

- 全国的に茶の価格は低調であったが、とくに足柄茶ではコロナ禍の影響で令和2年度以降、葬祭用など消費量の減少に伴って価格が急落し、茶農家の経営は切迫していた。
- さらに、肥料価格の高騰が追い打ちをかけ、生産費の約7割を占める肥料費の低減対策は急務であった。
- そこで、安価な混合堆肥複合肥料・鶏ふん堆肥を利用した低コスト施肥体系を提案し、その導入普及を図ることにした。

活動内容

- <R4～R6年度> 鶏ふん堆肥のアルカリ分が茶の成育に悪影響があると一般的に思われており、その懸念を払拭するため、山北町谷峨地域に現地実証ほを設置し、3年間に渡り調査した結果、低コスト施肥体系においても既存施肥体系に比し1番茶の収量・品質ともに影響がないことを実証した。
- <R5～6年度> JAかながわ西湘と連携し、実証展示ほならびに生産者ほ場の土壌分析結果から養分バランスに影響がないことを実証した。また、これら実証展示ほの結果を各生産組織の会合や講習会等で説明し、生産者の理解を得るとともに低コスト施肥体系の導入を指導した。

また、肥料の注文票に低コスト施肥体系の肥料を掲載することで、生産者が購入しやすくするよう、JAを促した。



具体的な成果

- 山北町において65%の生産者が低コスト施肥体系を導入したことを筆頭に、県下他地域でも導入が進み、足柄茶生産者の41%にあたる89戸で導入された。
- 低コスト施肥体系を導入した生産者は10aあたり肥料費の約3割(24,000円程度)の削減を実現した。(R6. 1月時点)